

コロナ禍に対応する「新しい生活様式」が定着しつつある。閑静な山あいにある旧閑谷学校や当センターも安心・安全の環境を整え、観光客や研修生を受け入れている。旧閑谷学校はG・O・T・O・トラベル事業の開始と、楷の木の色づきに伴い、客足が前年の6〜8割へと回復しつつある。

一方、センターは宿泊を伴う研修が減って延べ利用者数は前年の2割弱にとどまり、まれな宿泊者は大部屋を広々と使っている。

しかし湿っぽい話ばかりではない。意外なニュースもある。一つは、修学旅行を断念した小中学校が代替で研修に訪れたため、この秋の利用者数が前年を上回ったことだ。せっかくの機会に県内唯一の特別史跡の探訪、県内に二つしかない国宝の建造物の一つである講堂での論語体験を通じ、県民の宝としての価値に触れてほしい。

もう一つは、新たな旧閑谷学校

岡山県青少年教育センター 香山 真一  
閑谷学校 校長

## 一日一題

### 過ちを恐れず

の活用のあり方を模索できたことだ。リモートワークやオンライン授業に着想を得て、皆で知恵を絞ってリモート研修を企画した。まず「今日の論語」と題して五十音順にSNSで発信した。随より始めよ、で「過ちて改めざる、是を過ちと謂う」を講堂前で撮った。千回を超える視聴があり、「学びの森 閑谷」のチャンネル登録者数も100人を超えた。

以後、閑谷学校紙芝居、各種研修動画、史跡ガイドなど、さまざまにコンテンツをSNSやホームページで公開してきた。これまで足を運ばないと体験できなかった事柄の概略を動画で視聴していただき、実際目にした際に深い学びとなるように工夫している。

これらの取り組みを通じ、危機を好機と考え、過ちを恐れず、課題に挑戦する空気が職場に満ちてきた。集団としての結束力は、このたびの何よりの収穫である。